

「国立公園内で開催されるトレイルランニング大会等  
におけるモニタリングの手引き」に拠る  
モニタリング地点選定の為のヒアリングレポート

平成 29 年 5 月 10 日

第 5 回 スリーピークス八ヶ岳トレイル

## スリーピークス八ヶ岳トレイル大会コースについてのヒアリング

ヒアリング日時：平成 29 年 5 月 2 日（火）

ヒアリング場所：北杜市役所小淵沢支所

出席者：

竹内敬一氏（北杜警察署山岳救助隊隊長、八ヶ岳山岳ガイド協会会長、青年小屋・権現小屋オーナー）

加藤紀雄氏（小淵沢山岳会、北杜市市議会議員）

松井裕美（スリーピークス八ヶ岳トレイル実行委員、日本トレイルランナーズ協会理事）

小林 努（スリーピークス八ヶ岳トレイル実行委員）

大会名：スリーピークス八ヶ岳トレイル

開催数：第 5 回（5 年目）

開催日：平成 29 年 6 月 11 日（日）予定

出走者数：38k コース 250 名 予定

23k コース 500 名 予定

## スリーピークス八ヶ岳トレイルについて

スリーピークス八ヶ岳トレイルでは 2013 年第 1 回の開催より大会開催前、許可申請時、大会開催後における関係各所からの意見や通達による改善を都度図ってきました。また主催となる実行委員会はコースとなる八ヶ岳南麓在住者及び観光業に従事する者、コースとなるトレイルを頻繁に行き来している住民が中心となり、地元の意見や、自然保護、環境保全、観光面など様々な視点から大会内容を協議してきました。

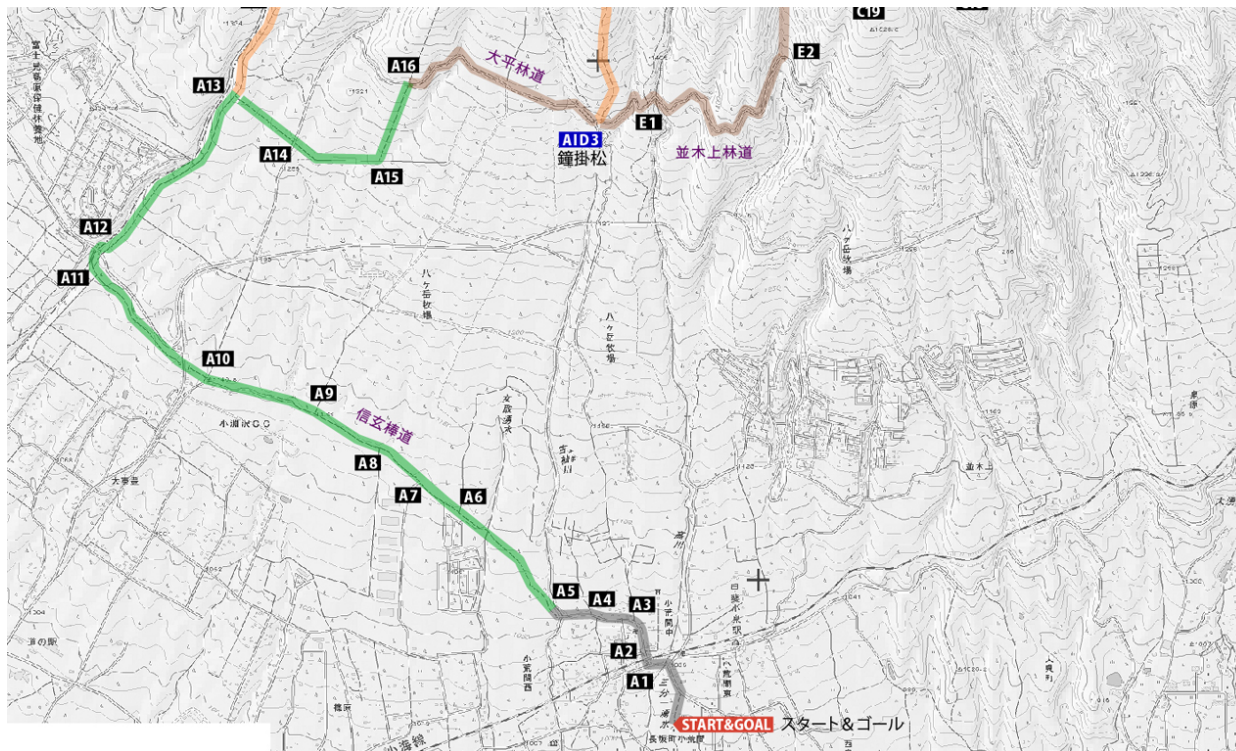
そしてこの 5 年間トレイルランニングというスポーツが拡大していく中で、流行に流される事無く、自然環境負荷低減の為の大会参加者の削減や、出走前の靴洗浄、大会必携品の検査など、常に新しいことにも自主的に取り組んで来ました。また参加者のマナーを徹底するべく、全員に確実に周知出来るよう務めてきました。

これからも集客面と環境保護面、ともすると相反する課題に真摯に向き合いながら、故郷でもあり、大事な八ヶ岳を汚す事の無いような大会運営を考えていきたいと思っています。



## モニタリング地点選定についてのコース概要

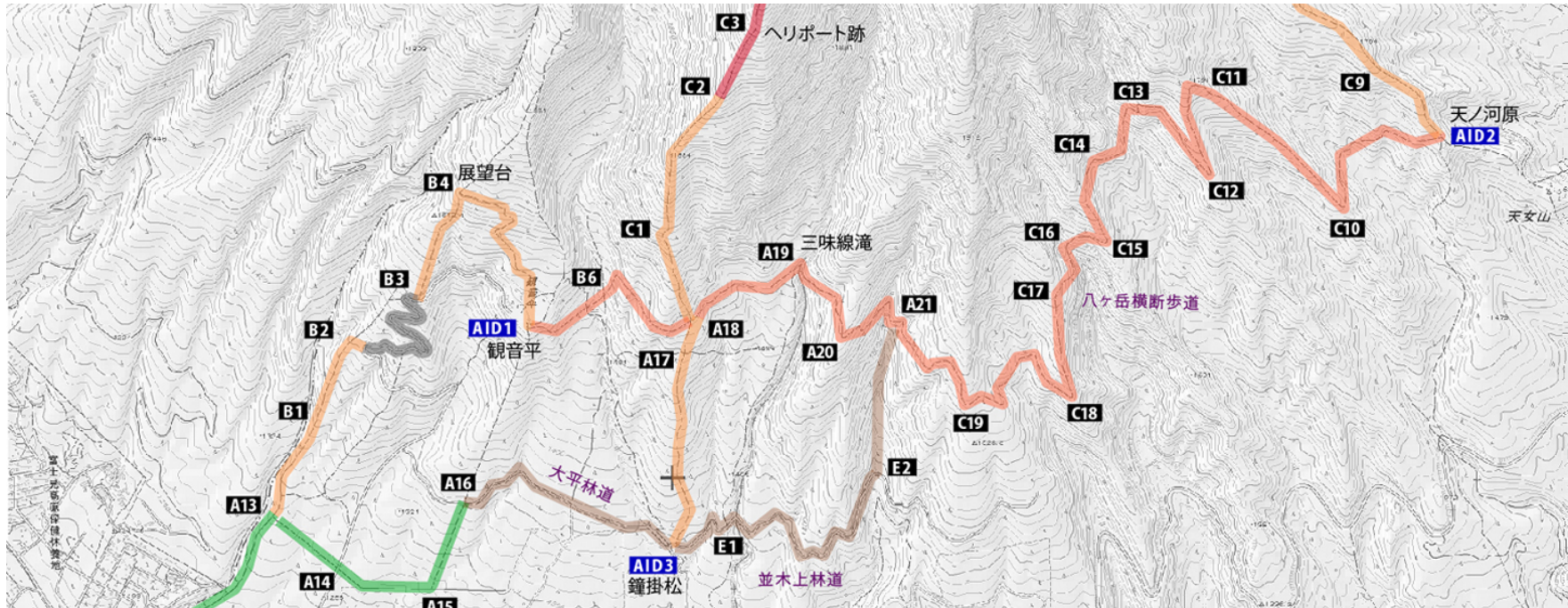
### 【A】 スタート～A13 (38K・23K 分岐) ～E2 区間



A5～A11 区間は信玄棒道。地域住民の毎日の散歩や、観光場所としても紹介される地点で、春～大会開催時前後までは山菜採りなどで一般車両も見かけます。小淵沢の各乗馬クラブの外乗使用道でもある等、日々不特定多数の者が行き来している道であり、また十分な広さがあり、他団体とのすれ違い等にもこれまでに問題はありません。

A11～A13 経由 A16 区間は防火帯区間で、道幅も十分な広さがある中で走行箇所は限定して通行を促しています。A13 より E2 までの区間は車両も通行する林道で、この区間まで馬のエンデュランス競技や外乗で普段より利用されています。日々様々な利用のあるこれら【A】区間でのモニタリングは適当ではないということに至りました。

【B】 A13～B4（屏風山展望台）～観音平～八ヶ岳横断歩道～天ノ河原



A13～B2 区間は A13 までの道の続きとなり、ぬかるみを避けるため B2 より一般車道に迂回しています。  
B3～B4 区間は急登を上る区間。展望台までの踏み固められた道であり、道幅も 1m 以下と狭くなりますが、その前の一般車道通行時に一列通行に制限しているため、混雑は起きにくくなります。急登でほとんどのランナーが歩いて通行することになる区間です。

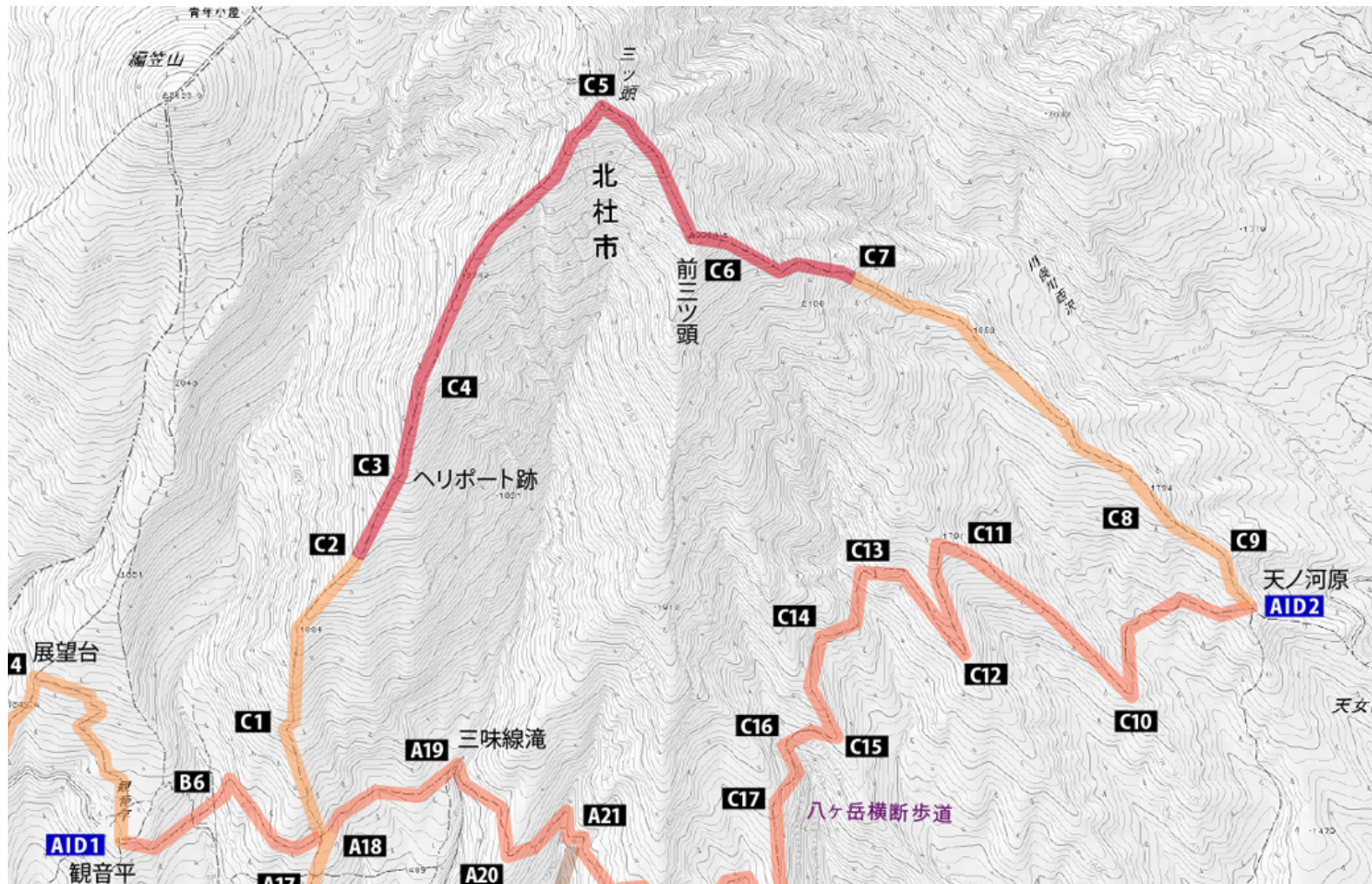
B4～観音平までは観音平から展望台までの踏み固められた道。一部岩場を通行する他は両側笹に覆われた緩やかな下り道。夏期以外は利用者も少なく、これまで通行に障害もありません。

観音平からは A18 地点まで八ヶ岳横断歩道を進みます。その後三ツ頭に向い、天ノ河原から再び八ヶ岳横断歩道を逆向きに帰って来ます。八ヶ岳横断歩道は一般遊歩道として整備されている道ですが、アップダウンが続き、また道幅も広くありません。しかしすれ違いに困るほどの箇所は少なく、また負荷の大きくなる急な下り地点は沢（枯沢）に下る道が多く石場が多くなります。八ヶ岳の多くの団体が様々な活動に利用している道でもあり、登山に限らず不特定多数の一般利用者もあります。雪解けより大会時期まで山菜を採りに来ている方も多く見かけます。

E2～A21 区間は幅 2m 程の緩い坂道を上ります。作業用の道であるのか適度に整備されている道の上り通行です。

A18 から鐘掛松までは最初は笹の生い茂る中を下る幅 1m に満たないシングルトラック、八ヶ岳神社付近からは土の踏み固められた道を下ります。緩い下り坂が続き、最後は舗装路に出ます。しっかりと踏み固められた道であり、全体的に平均的な斜度が続きます。

【C】 C1~C9 区間 (三ツ頭登山道)



Cの区間は登山道となり、特に標高2000mを越える区間は大会でも特別環境保護地区エリアとして、無理な追い越しの禁止、一列通行、コースアウトの禁止を徹底し、また監視している区間です。

C5の最高地点までは急峻な登り坂が続くため、ほぼ歩きでの通行となっています。ただランナーも疲れている区間になり、道幅も狭く、植生も高山となり希少な植物もありますので、スタッフの応援や誘導により、コースアウトなどの無いように気を付けています。

最高地点C5からは下りとなり前三ツ頭を過ぎるまではガレ場が続き、展望も良くなることで、例年団体を含め一般登山者とすれ違うことが多くなる区間です。落石や崩落の危険がある区間で、大会中標高も一番高い区間になるので、大会では毎年一番ランナーの監視に気を付けている区間です。

前三ツ頭を過ぎて樹林帯に入ると地面は土となり、下りである事、走るランナーが多い事からも、天ノ河原までの区間は天候による路面状況の変化にも注意している区間になります。

C5の最高地点より天ノ河原までの区間が、環境に対しての負荷や一般登山者とのすれ違いについても本大会に於いて一番大きくなる区間だと考えられます。

## 事前の環境影響モニタリング地点の設定

ヒアリングの結果、以下の5地点がモニタリングすべき地点との指摘をいただき、事前の環境影響モニタリング地点として設定させていただきます。

### ① 木戸口公園

強い山風の影響を受けやすい地点

### ② 三ツ頭分岐

コース内最標高地点

### ③ 三ツ頭と前三ツ頭の間

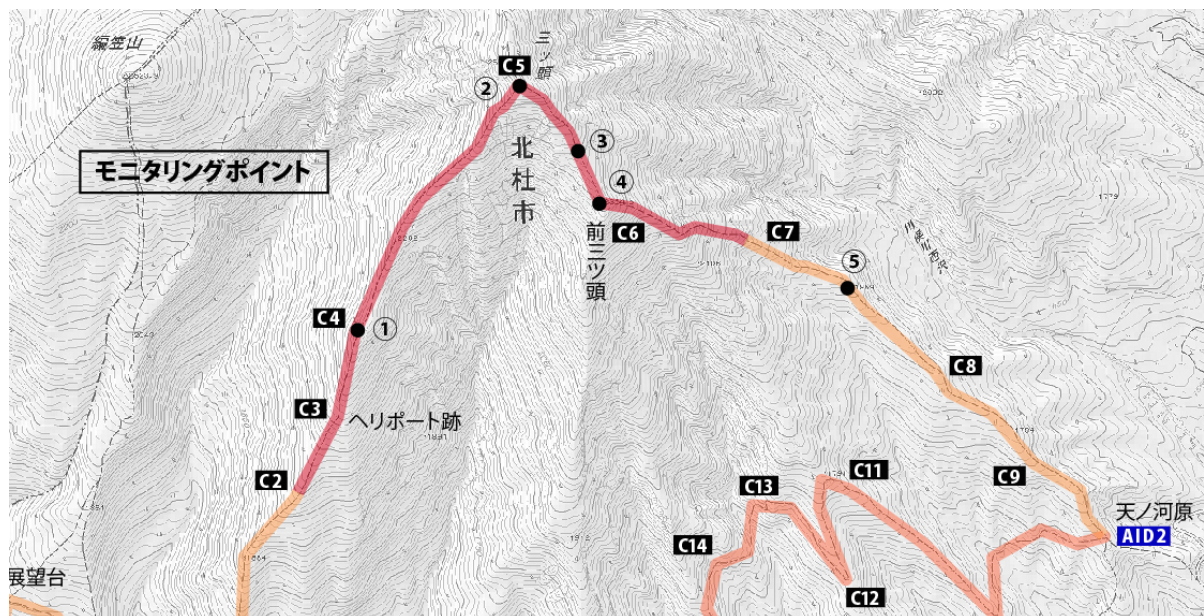
ガレ場で崩落の危険のある地点

### ④ 前三ツ頭山頂

登山者とのすれ違いが予想される地点

### ⑤ 天ノ河原手前のザレ地点

植生が影響を受けやすいと考えられる地点



また当日のヒアリング地点としては「② 三ツ頭分岐」にて行ないます。

スリーピークスハケ岳トレイル